思いやりの心を育む

府中市立旭小学校　校長名：武田　義治　【施設泊】国立吉備青少年自然の家

男女が協働して目標を達成する体験活動

１　「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

集団で何かをする時に，男女の違いを理由に協力ができず，また同じ友達との関わりが多く人間関係が固定化し，相手のことを考えることが十分にできないという学級の課題を，児童自身が改善するために，課題に向き合い，日常の学校生活や授業において，改善を図ろうとしています。

「山・海・島」体験活動では，関わり合いを重視したプログラムを設定するとともに，子ども達に活動目標や時間設定についても話し合い活動で考えさせるなど，子供たちに任せた活動となるように意図的に仕組みました。

このような取組によって，児童自らが体験活動での様々な課題をクリアしようと活動することを通じて，友達と協力する必然性や一人一人の役割などを意識して取り組み，そのことが男女関係なく協力することでこれまで味わったことがないような達成感を感じられるようにしました。

２　「山・海・島」体験活動の概要

（１）目的

様々なことに挑戦することを通じて，互いに協力し合うことの大切さを感じることができる。

（２）３泊４日の主な内容

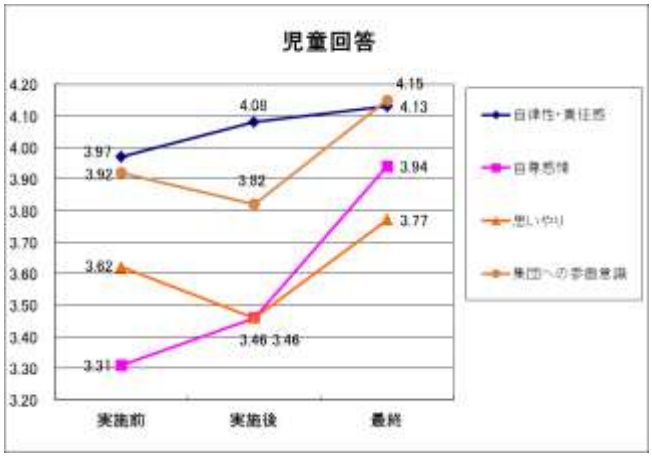
	午前	午後	夜
１日目	入所式	人間関係プログラム カプラ	キャンプファイヤーに向けた スタンツ練習
２日目	オリエンテーリング	野外炊飯	ナイトハイク
３日目	湖でのカッター	イニシアチブゲーム 野外炊飯	キャンプファイヤー
４日目	焼板工作	奉仕作業 退所式	

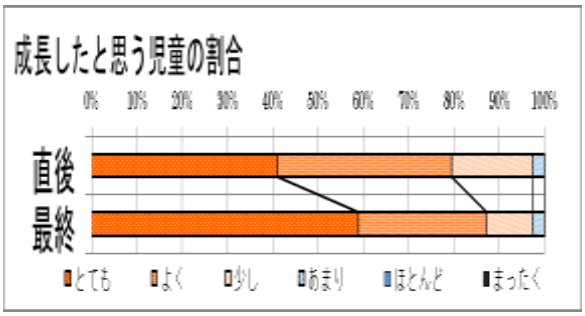
３　体験活動の指導の工夫

	事前学習	体験活動当日	事後学習
	男女の関わりを生み出すプログラムづくり	**プログラム実施中の話し合い活動**	**学校に戻ってからの取組との関連**
ねらい	○男女が協力しながら取り組むことにつながるプログラムを考えさせて計画することによって，学級の課題を解決しようとする意欲や態度を養う。	○プログラム途中でも，相手の立場に立って考えたり，グループで話し合ったりする必要がある場合には，児童自らが場を設定したり，要求したりできるような姿を目指す。	○体験活動での学びを，学校での活動で発揮させ，他者を思いやる心の定着を目指す。
活動内容	○学級活動でのプログラムづくり	○体験活動中の全ての活動における話し合い	○音楽発表会で発表したリズムクラッピング ○「相互理解・寛容」，「思いやり」等の価値項目での道徳授業との関連付け ○授業における話し合い活動の日常化
指導のポイントや工夫	○自己決定をさせる際には，子供たちに問いを立てさせ，「自分たちはどうしたいのか。」「そうなるためには，どのような方法があるのか」を話し合わせる。 ○困った時には，教師が答えを言うのではなく，これまでの学びの記録を見させるようにする。 ○話し合いがうまくいっていなくても敢えて助言しない。自分達でどんな話し合い活動がよいのか気付かせる。	○児童同士が困ったような状況があれば，自分たちでそのことを考えるような時間を設けたり，教職員に対して要求したりできることを事前に指導する。 ○徐々に児童が自発的に行動できるようにしていくために，はじめは教員が具体を示すことで理解を促し，具体の姿をとらえて価値づけを行うようにする。 ○プログラムを優先させるのではなく，児童の成長のために必要なことを優先するよう，受入施設との連携をとっておく。	○男女が協力できるようになったことを，具体の姿で表現させるため，音楽発表会でのリズムクラッピングを計画する。 ○全員が成功するためには，どのような準備が，どのくらいの期間で必要かを考慮して，練習計画を立てさせる。 ○途中でうまく行かない状況になった時のことを想起できるように，体験活動中の出来事をキーワード化して，児童と共有しておく。

４　取組による成果

（１）データによる児童の変容





○　児童回答のアンケートにおいて，実施前に比べて最終（実施後１か月後）の数値が高くなっています。また，約 97％の児童が「体験活動を通じて成長した」と，自分自身の成長を実感しています。

（２）児童の感想

・　一人一人の役割を自覚し，協力しなければ解決できないことに気付きました。これまでは，自分の役割はあまり意識していなかったけど，一人一人が役割を果たさないといけないことに気付きました。
・　一つ一つの課題を乗り越えていく中で，これまではできていなかった男女関係なく助け合うということが，できていっていることに気付きました。どうしてできるようになったのかとみんなで話し合うと，「協力した方がいろんなことができる。」「全力を出し切ったからこそ，協力した方が楽しいことに気付いた」という意見が出てきました。
・　先生に言われたのではなくて，自分たちだけでできるようになったことが自信になりました。
・　リーダーとしての自覚が身につきました。「自分は前に出るタイプでなかったが，今回，班長になったことで，みんなを引っ張ることの難しさや人前で話すことの大変さがわかりました。でも，やりきれたことで自信につながり，児童会役員選挙の推薦者という役割もしっかりできました。
・　体験活動の中で，一人一人得意なことや苦手なことはあるが，班で助け合い，補い合えば，困難も乗りこえることができるとわかりました。今まで知らなかった，気づかなかった友だちの良さに気付きました。
・　自分の役割をしっかり果たさないと，班としてうまくいかないことが分かりました。次にうまくやるため，もう一度それぞれの役割を確認し，それを実行したらうまくいきました。
・　もめ事がある時，いつも人のせいにしていたし，「何でいつも自分ばっかり」と思っていました。でも先生に，「何でいつもあなたの班ばかり・・・。自分のこともふり返ってごらん」と言われて気付きました。自分も言い方がきついし，相手のことを考えていないと感じたので，それから，話し合う時，何かを決める時は，まず相手の意見を聞くようにしています。